

## 令和4年度大淀幼稚園学校自己評価結果公表シート

### 1、本園の教育目標

夢のある楽しい活動や体育活動などを通して豊かな心を育て、脳や感覚、基礎的な運動能力の発達を図り、将来の学習に対応できる十分な力を養うことを本園の教育の目的とする。

### 2、本年度重点的に取り組む目標

依然として続くコロナ禍であるが少しずつ光も見え始めている。長く続く自粛生活で子どもたちの心身に影響がでていないかと懸念されるが、幼稚園児らしい伸びやかな個性を伸長できるように努める。また幼稚園は教育機関であることから、自由で伸びやかな幼児期らしい保育とともに小学校の教育に十分に対応できるように教育としての側面も重視して園内研修を行う。また当園の教職員全員を対象とした「マナー研修」を行うことにより対保護者は当然として職員間でも相手を思いやる態度を醸成する。

### 3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み
1) 教育課程の編成と共通理解	1) 当園の保育の原点と特長をみつめ、5領域を中心とした、時流に流されない、幼稚園本来の幼稚園らしい保育とともに総合活動や今年から始めたサークルタイムの活動により、当園らしさに重点を置いた取り組みを行った。
2) 教職員個々の資質を高める取り組み	2) 外部講師を招いての研修。マナーに関する研修を行った。
3) 子どもたちの情報の共有	3) コロナ禍の中で親子ともども孤立する状況があり個々の育ちに保護者の認識のずれが感じられるので、電話などでできるだけこまめに情報をとり、必要に応じて学年、全園で情報を共有した。
4) 子どもたちの自発性や知力を高める取り組み	4) 積極的にサークルタイムを導入しクラスやグループごとの話し合いを行った。指導者はファシリテーターをして見通しを持ちながらも過度に介入しないように注意して取り組んだ。 図鑑やインターネットなどのICT機器も積極的に導入した。

<p>5) 保護者との連携</p> <p>6) 防犯対策</p> <p>7) 施設の安全対策</p> <p>8) ICT化の試み</p> <p>9) 未就園児教室</p>	<p>5) コロナ禍で子どもたちよりも保護者が分断されていることを痛感している。個々の園児についてはこまめにやり取りをし子どもの育ちについて共通理解ができるように努めた。</p> <p>6) 防犯訓練は職員間で年に複数回行い防犯意識とともに実践的な対応も意識して行った。 子どもたちにも積極的に話して意識を高めた。</p> <p>7) 園内の遊具の安全点検を複数回行った。</p> <p>8) 登降園や預かり保育等の園児管理に「brain」を導入し、指導要録も電算化して教員の負担軽減を図った。</p> <p>9) 園外に所有する施設「ラビーハウス」において未就園児教室を行った。 園内の行事に左右されない未就園児にたいする取り組みができた。</p>
---	---

#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価

コロナ禍はある意味で園の保育について見つめ直す機会であった。総合活動や今年から取り入れたサークルタイムの活動によって幼児期に特徴的で大切な遊びを通した伸びやかな育ちと学校教育に向けてそれに対応できる能力を深める教育を行った。道半ばで春が一定の成果は出ているように感じる。

子どもに限らず教職員同士も互いに肯定的に評価してチームワークを醸成するようになった。職員間でまとまりがみられていると思う。

#### 5、今後取り組むべき課題

幼児期の育ちと小学校以降の学校教育に結び付く活動との整合性を見出すこと。

#### 6、財務状況について

公認会計士による監査の結果、適正に運営されていると認められる。

#### 7、学校関係者評価

運営は適切であり、特に指摘すべき事項はなく妥当である。